

(財) 仙台国際交流協会

## 東日本大震災における外国人被災者アンケート 集計結果

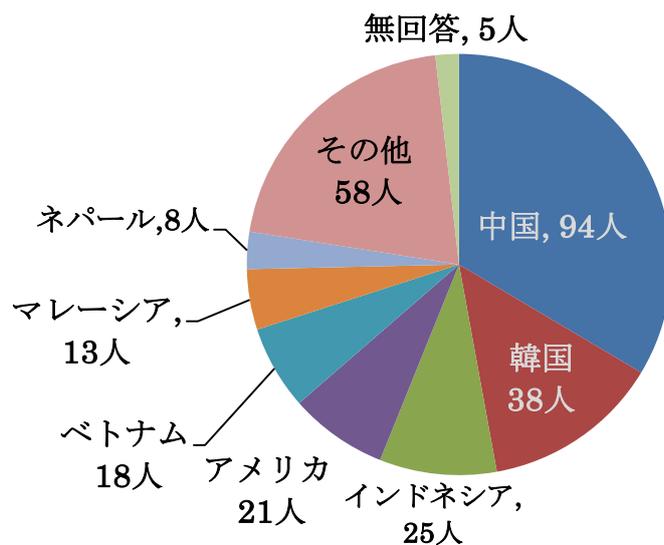
2011年11月1日

1. 実施主体 (財) 仙台国際交流協会
2. 実施時期 2011年4月から10月まで
3. 実施目的 東日本大震災で被災した外国人住民を対象にアンケート調査を実施し、震災時の外国人住民の行動や心理状況について把握するとともに、今後の支援や情報提供の有り方を検討するため。
4. 調査方法 (1) 「外国籍市民懇談会」「生活オリエンテーション」にて実施  
(2) 外国人コミュニティ／グループに依頼して実施  
(3) 仙台国際センター来館者を対象に実施  
(4) 「せんだい地球フェスタ」等イベント開催時に実施  
(5) その他
5. 調査言語 日本語、やさしい日本語、英語、中国語、韓国語
6. 翻訳協力 東北大学国際文化研究科 (英語、中国語、韓国語)  
弘前大学社会言語学研究室 (やさしい日本語)
7. アンケート用紙 別紙添付のこと
8. 回答回収数 328
9. 有効回答数 282

## 回答者について

■性別 男性 148名 女性 134名

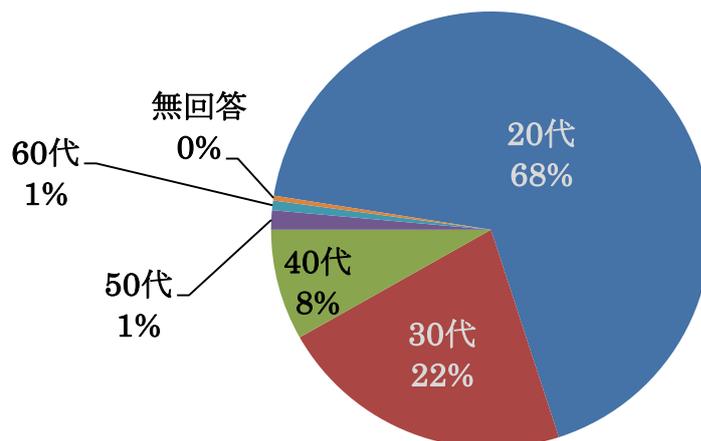
## ■国籍



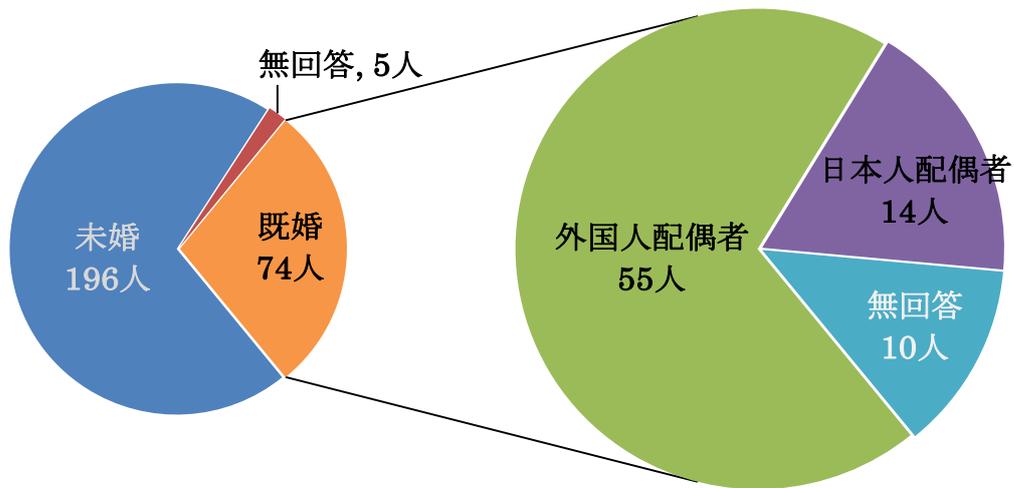
## ◆国籍「その他」の内訳

- 5人 イギリス、カナダ、トルコ
- 4人 オーストラリア
- 3人 タイ、バングラデシュ、フィリピン、モンゴル
- 2人 エジプト、スリランカ、台湾、ニュージーランド  
南アフリカ、モロッコ、ラオス

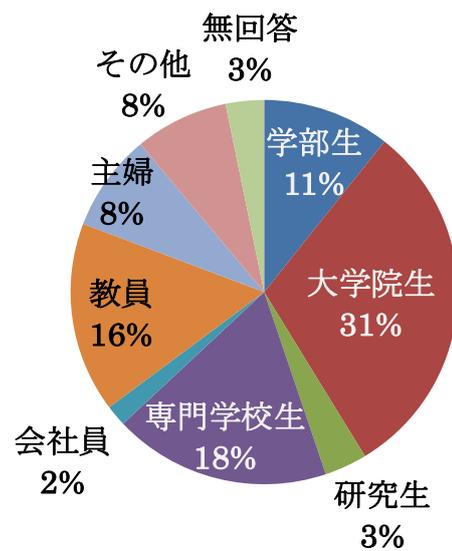
## ■年代



## ■未婚・既婚、配偶者の国籍

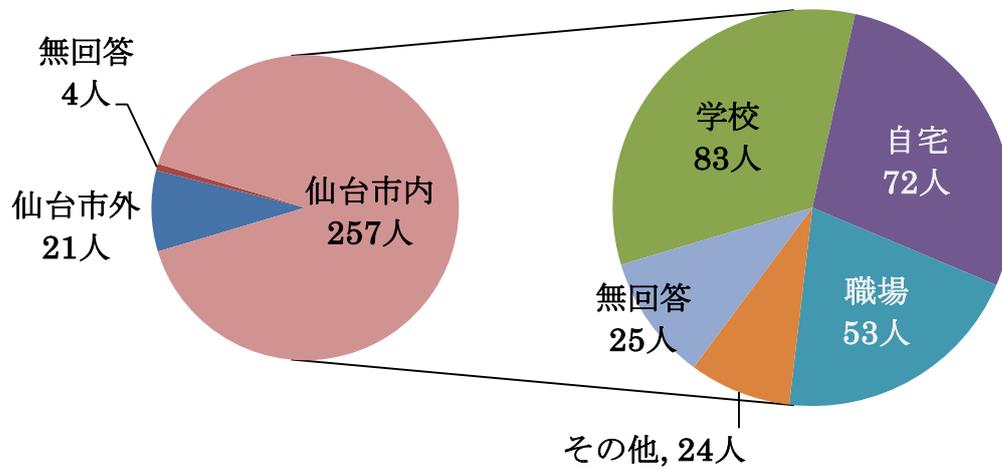


## ■職業等



## 質問と回答

### ■3月11日はどこにいましたか？



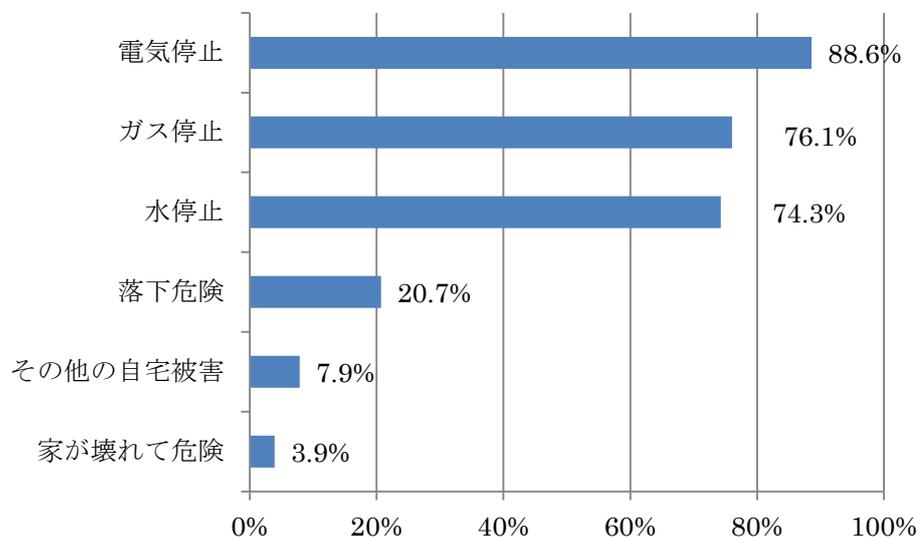
#### ◆仙台市内「その他」内訳

- 6人 街中
- 2人 仙台駅、友人宅
- 1人 青葉区市民センター、区役所、研究室、県庁合同庁舎、新幹線の中、大学図書館、バス、バス停、東仙台、レストラン、野外

#### ◆市外の内訳

- 3人 茨城、東京
- 2人 名取、千葉
- 1人 東塩釜、古川、伊達、山形、埼玉、神奈川、南相馬、名古屋

### ■自宅の被害は？（複数回答可）



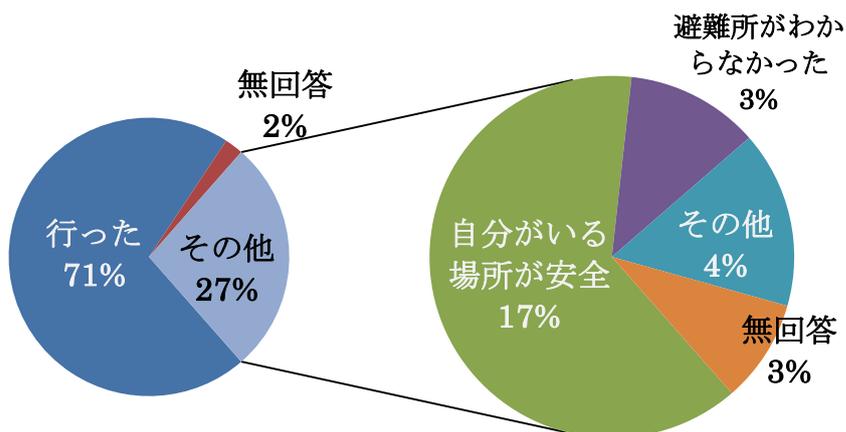
## ■避難所に行きましたか？

行った	198人
泊まった	65人
泊まらず帰った	23人

行かなかった 76人

### 【理由】

家が安全だった	48人
わからなかった	9人
その他	12人
無回答	7人



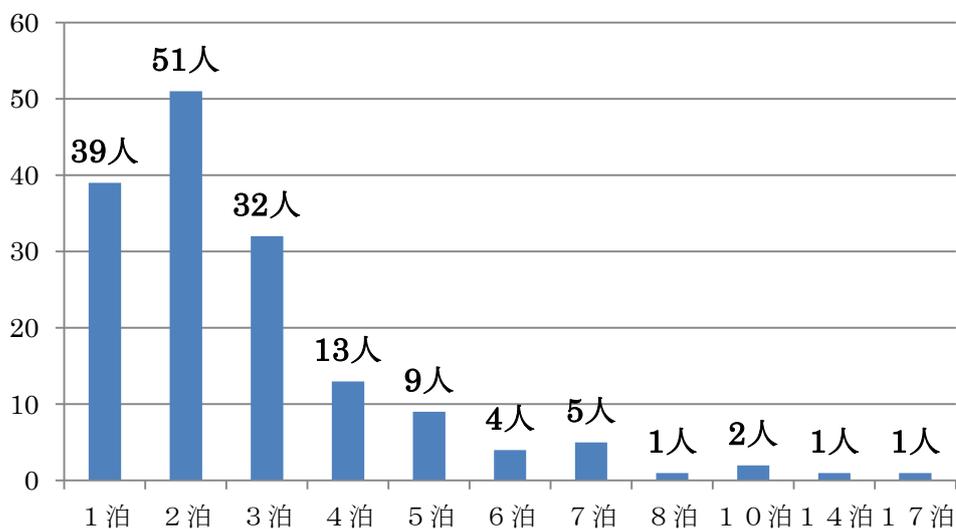
## ◆避難所に行かなかった理由

- 電気がなくて行けなかった
- 揺れはたいしたことではなかった
- パニックになった人たちがたくさんいるところには行きたくなかった
- 友人宅、先生宅に行った
- 自宅が被害なく安全だった など

## ◆安全だと思った場所

- 15人 自宅、学校の寮
- 5人 友人・知人宅
- 1人 五橋、大家さんの家、仙台教会、大使館、寺、定禅寺通りのレストラン田村

## ■避難所滞在日数



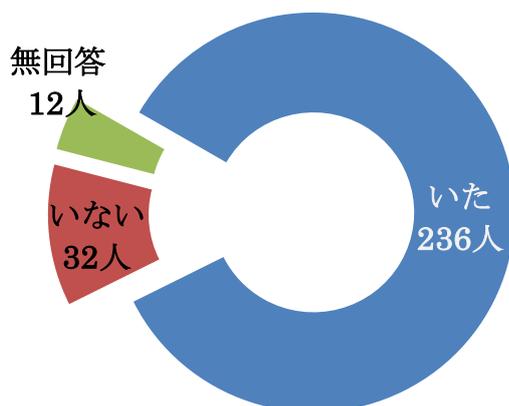
## ■避難場所

- 22人 三条中学校
- 16人 荒町小学校
- 8人 小学校（名称なし）、遠見塚小学校
- 7人 片平丁小学校、東北福祉大学
- 5人 国見小学校、総領事館
- 4人 若林区役所
- 3人 三沢アメリカ空軍基地
- 2人 荒町市民センター、近所の避難所、川内コミュニティセンター、北仙台小学校  
仙台市役所、仙台市体育館、東北大体育館、新潟市体育館、西山小学校、八幡小学校
- 1人 青葉区の小学校、青葉区体育館、ウイスティンホテル、エンジニアリングセンター  
折立中学校、学校、上杉山中学校、北六番丁小学校、北仙台、北八町通、  
ゲストハウス、桜ヶ丘小学校、仙台駅ホテルロビー、体育館、大学食堂  
太白区役所、高砂小学校、立町小学校、東京インドネシア大使館、東北大学病院  
通町小学校、中田中学校、七北中学校、西多賀中学校、西山中学校、東仙台  
東塩釜あたりの小学校、東二番丁小学校、福島、福室小学校、茂庭台小学校  
館高校、友人宅、吉成小学校、ヨハン仙台教会、若林小学校

## ◆避難所で困ったこと

- 22人 食料・水不足
- 16人 寒い・防寒具がなかった
- 6人 日本語がわからない（情報不足）
- 5人 スペースやプライベートがない
- 3人 電気がない
- 2人 トイレが足りない、シャワーがない
- 1人 グルテンアレルギーで救援物資の食品が食べれなかった  
困ったことはあったが、明確にわからない  
空気が悪い、埃が多い

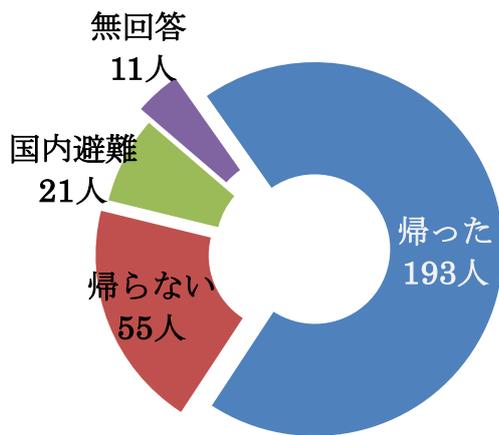
## ■災害時に頼った人はいましたか？



## ◆誰に頼ったか？

- 174人 友人・知人
- 51人 先生
- 46人 近所の人
- 45人 家族・親族
- 5人 大使館、領事館
- 4人 雇用主
- 3人 大家、同僚
- 2人 学校職員、ホテル従業員、SIRA
- 1人 三条中学校のインフォメーション  
仙台駅のインフォメーション  
ホストファミリー、アメリカ政府  
寮の職員、近所の学校

## ■地震の後、帰国しましたか？



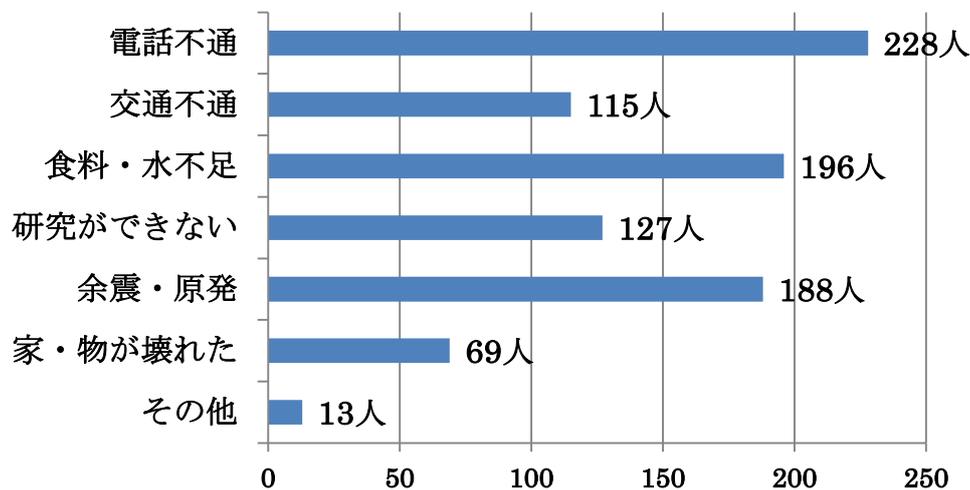
### ◆帰国した理由

政府（大使館）の勧め	71人
原発事故が心配だった	98人
被害の影響で生活が不便だった	69人
母国の家族や友人に心配された	107人
地震の前から帰る予定だった	12人
その他	11人

### ◆「その他」の一例

- 赤ん坊がいたので、つらい目に遭わせたくなかった
- 病気のため
- 自分がいることで貢献できることは少なく、数少ない資源を消費することがためらわれたから
- 仙台から離れるべきだと思った。国内避難より安く済むと思ったから
- 研究を続けるためには、仙台にはいられなかったから
- 余震が心配

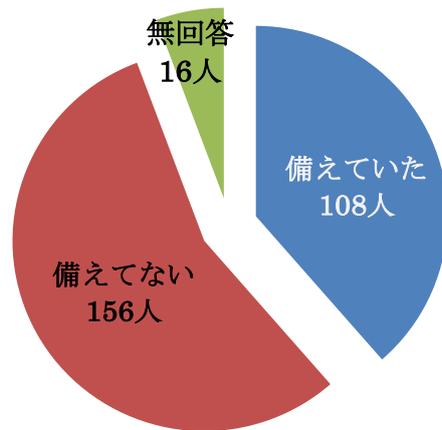
## ■今回の災害でどんなことに困りましたか？



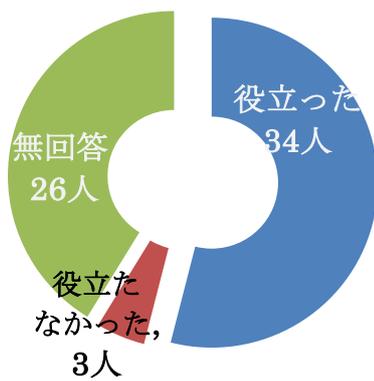
### ◆「その他」の一例

- 情報不足、原発関連の情報が錯そうしていた。英語の情報がほぼなかった
- インターネット不通
- 携帯電話、パスポートを地震でなくし、5日後になって初めて探すことができた
- 夫が本国に帰っており、頼れる人間がいなかった
- トイレが使えなかった、1週間シャワーが使えなかった
- 海外にいる家族・友人からの圧力
- 病気にかかった

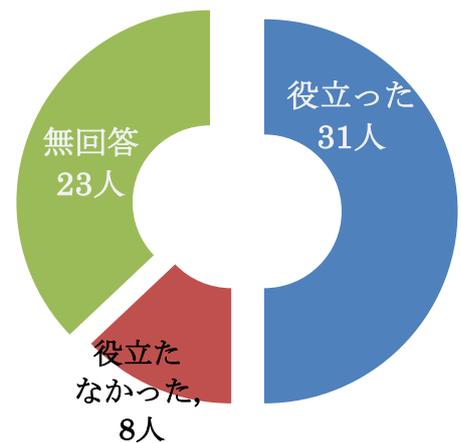
■日頃から災害に備えていたことはありましたか？



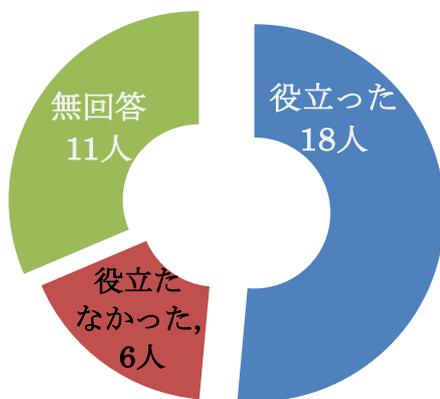
防災訓練に参加した 63人



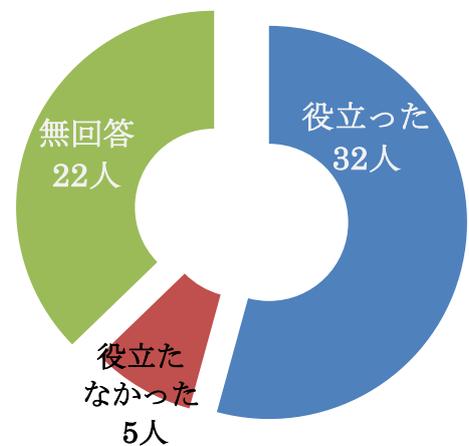
避難所の場所確認 62人



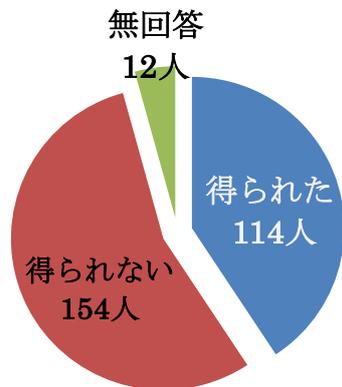
安否確認方法を決めた 35人



持ち出し袋を用意した 59人



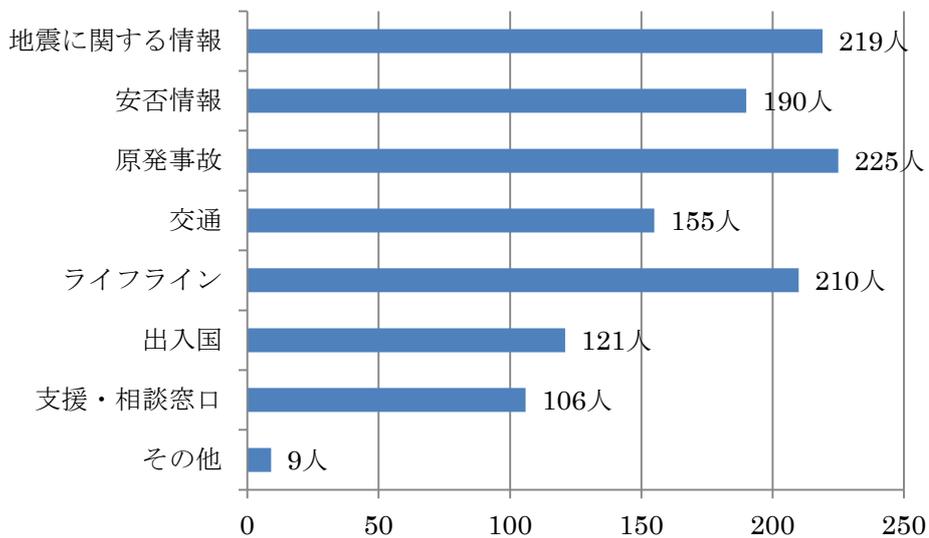
■ 3月11日の当日や翌日に、必要な情報を得ることができましたか？



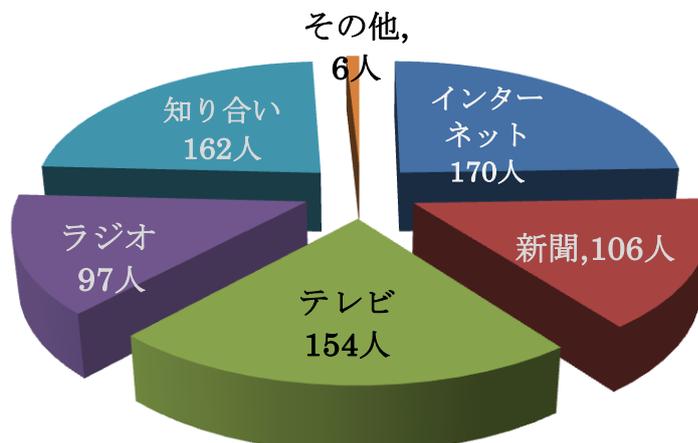
◆ 「得られなかった」理由（複数回答可）

- 115人 携帯やPCが使えない
- 63人 アクセスがわからない
- 55人 母語での情報不足
- 7人 その他

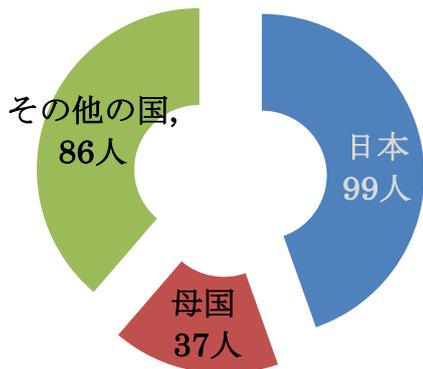
■ 地震発生から1週間程度の間、どのような情報が必要でしたか？（複数回答可）



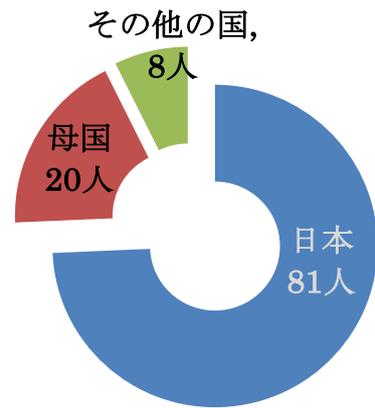
■ 地震発生から1週間程度の間、情報をどのように入手していましたか？（複数回答可）



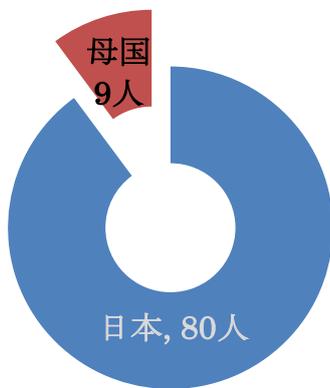
どこのインターネットを利用したか



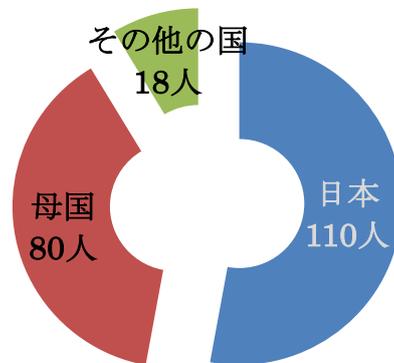
どこの新聞を利用したか



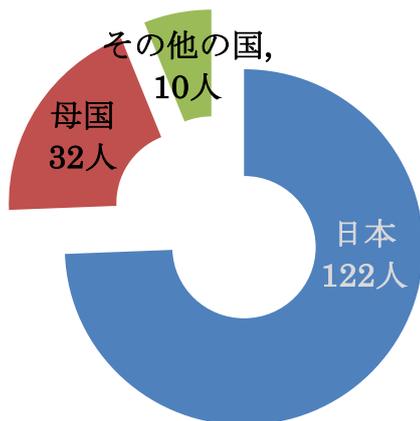
どこのラジオを利用したか



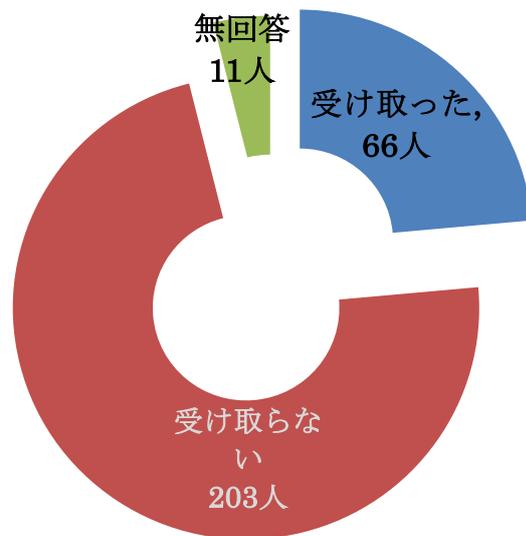
どこにいる知り合いに聞いたか



どこのテレビを利用したか



## ■仙台市災害多言語支援センターからの情報を受け取ったか？



## ■今回の災害を通じて感じたことがあれば自由に書いてください。

### ◆地震・津波が怖かった！生きていることに感謝

- ▶ 地震と津波は自然の力がとても激しかった。私は石巻でボランティア活動に参加しました。直接見た石巻は怖い感じがした。石巻の人の生活はすごく大変だと思っています。日本と日本人を手伝いたいと思っています。復興するために、みんなの努力は必要です（ベトナム）
- ▶ 地震が怖くて、危ないと思いました（中国）
- ▶ 私の家は石巻なので、家は大丈夫だったけれど周りがダメでした。今回の震災でいろいろ感じましたけれど、自然の力はどうやっても人間の力では防ぐことができないと考えました。早く復旧してほしいです（韓国）
- ▶ 食物がなく、夜寝られなかったです（中国）
- ▶ 津波が来た時、すごく怖くてもう逃げられなく、人生はこれで一発終わりだと思いました。1回目の津波がそんなに強なくて良かったです（中国）
- ▶ 人生のいい経験になって、思い出になりました（中国）
- ▶ 生きて良かったです！地震の後前より勇気を持つようになりまして、日本の建築にも自信を持つようになりまして。そして、生活の態度が変わりました。今回の地震を乗り越えたら、今後にはどんな困難でも乗り越えられるかなと思います。（中国）
- ▶ 生きることに感謝します（スーダン）
- ▶ すごくゆれてこの状態でいきていけるかなと思った（中国）
- ▶ 3月11日から今までもずっと心配しています（インドネシア）
- ▶ 仙台は地震があるとき怖いです。私は地震が初めてでした（ベトナム）
- ▶ 怖かった（ベトナム）
- ▶ 地震や津波が起きた、私は大丈夫です。原子力発電所が心配です、それで国へ帰った（ベトナム）
- ▶ 津波にあわなかったけど、怖かった（ベトナム）

- 日本にいなかったら、地震ってどんなものかをわからなかったです。そして、今回の事件で日本の発展している国としての強さを感じられました（中国）
- 前は地震に会ったときはあまり怖くありませんでしたが、今は地震が起こるときは怖い気持ちがあると思う（マレーシア）
- 怖くて地震はもうあいたくないです（ラオス）
- 怖かったです。こんな大きい地震は初めてでした（インドネシア）
- 日本に留学してからもう2年間経ったけど、あんな大きい地震を初めて体験したので本当に怖かったです。でもみんなが無事でよかったですと思います（マレーシア）
- 地震が怖かったのですが、人と人のつながりや、人の温かさが今回の地震で感じました（中国）
- 恐れ、決断をする難しさ、心理的トラウマ（ミャンマー）
- 怖いです（中国）
- やっぱり大きな災害の前で、一人の力がすごく弱く感じられました（中国）
- 人生はわからないものだと思います。毎日周りの人を大切にしたいほうがいいです。楽しんで暮らせば最高です！（中国）
- このたびの東北地方太平洋地震により、被災されたところが多かったから、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます（中国）
- 平成23年3月11日、今生はじめての大地震あったので、本当に不安でした（中国）
- 今回の地震や津波は怖かった。いっぱい日本人が亡くなったのはとても悲しかった。涙が止まらなかった。日本はいい国なのに、どうしてそういうことが起こったのですか。理解できません。外国人が逃げる場所はあるのですが、日本人が逃げるところがないです。かわいそうです（中国）
- 初めての大地震にあって死んでしまうかなと思いました。しかし、日本人の皆様と一緒にいたから、いろいろ教えてもらいまして、何となく落ち着いていました（中国）
- 今後、このような災難が起こらないよう心から願います（中国）
- 親族の大切さをよく実感できた。生と死は本当に一瞬のこと（中国）
- まず心が非常に痛かった韓国にいる家族と連絡ができず大変だった。原発事故の件でいろいろ葛藤したが、世界どこでも同じ状況だと思い、耐えられると思った。今はだいぶ落ち着いた。当時は怖さとおそれにおびえて生活したが、今は少し良くなった。しかしまだ余震が多く少し不安である（韓国）

#### ◆物資も無いし、情報もなく不安だった。非常用の連絡システムが必要だ

- 大好きな日本がこんなひどい目に遭ったのは実に痛ましい。日頃日本人の方々から様々な面でお世話になっていたのに、帰国した時になんとか日本を裏切った感じがする。自分は被災を免れたのは実に幸運だけど、次いつ来るかわからないので、万が一に備える意識がすごく強まった。将来ずっと日本に暮らしていきたいと思っているので、自然と共生する覚悟をするうえ、災害を未然に防ぐためには今後防災訓練なども参加しようかなと思う（台湾）
- 地震に関する情報の収集ができなくて、食物と水がないです。今回の地震が人生の初ですが、その後の余震が多かったですから、慣れてきました。ただ、いつ大きい余震が来るのかわからないです（中国）
- 最初の数日間はほんの少ししか役に立たない同じ情報が何度も繰り返し流れていた。英語の情報少なかった（アメリカ）

- ▶ 地震があまりにも大きくて、大学も全然動かなくて、帰ったほうがいいか帰らなくてもいいか迷いました。また原発のこともあって、いまだに食安全など本当に正しい情報がもらっているかどうか不安が続いています。信頼できる正しい情報が大事だと思いました（中国）
- ▶ 3日間避難者の世話をした。彼らの多くは外国人。どこかの人が私たちの学校の電話番号を緊急電話番号としてウェブ上に投稿したため、世界中からの安否確認電話への対応に追われた。
- ▶ 多くの先生は英語が話せないから、ストレスをためることになった。100km以上離れたところからの電話を受けたりしたが、彼らに対する情報はもとより、自分たちの情報すら十分になかった（オーストラリア）
- ▶ 今回の災害を通して、領事館の方で平常時にリストをきちんと確保して、このようなときに迅速に安否確認ができるようにしてほしい（韓国）
- ▶ 非常時の連絡システム（情報交換）の重要性、地震対策に対する重要性（韓国）
- ▶ あらかじめ受けた教育がとてもためになりました。そして母国語による案内もまた非常に助かりました（韓国）
- ▶ 非常時の連絡システムの重要性を切実に感じました（韓国）
- ▶ 物資不足で、買い物するときすごく長い列で並びました。いろいろな作業の効率が低く、日本のような発展している国でこういう低効率なことがあってもいいの？（中国）
- ▶ すごく怖い経験です。そして、震災後の対応がそんなに良くないと思います。食物と水が足りません（中国）
- ▶ 地震に備える対応が不完全（中国）
- ▶ 日本政府が迅速で的確な情報を提供しなかったため、国民・不安が増したのではと思う。隠さず、知る権利がある国民に信頼を与える日本政府になってほしい（カナダ）
- ▶ 地震の怖さを切実に感じることができました（韓国）
- ▶ 二度と経験したくありません（韓国）
- ▶ 地震は本当にまずい事件であり、今私達はもう二度と起こらないように祈願します。  
地震の日の夜は福祉大学に泊まりに行きました。着いた時、地震に対応するものもう全部用意しまして、本当にありがたいです（トルコ）
- ▶ 避難所ではもっと多い水、食物や薬を備えたほうがいいです。外国人に避難所の場所と行き方を説明したほうがいいです。また、避難所の様子を確認するため、パトロールする車を用意した方がいいです。こうすると、避難所で何か起きたら、早めに知れるはず（中国）
- ▶ 地震予報がないです！（中国）
- ▶ 周りの人々から話を聞いてみると仙台市災害多言語支援センターが役に立ったと思われる。いつまた災害になるかわからないため、多言語支援センターのPRをもっとしてほしい（韓国）
- ▶ 少なくとも英語の情報は入手可能であるべきだ（インドネシア）
- ▶ 外国人に対する支援を強めてほしいと思います（中国）
- ▶ 対応が遅い（韓国）
- ▶ 被害のある国のメディアは信用できないこと（韓国）
- ▶ 災害に関する英語情報（インドネシア）
- ▶ 子供やとくに赤ちゃんに対する備えが重要（マレーシア）
- ▶ 非常に怖かった。これから非常時の準備を徹底し、もう1度地震が起きる場合には、上からの指示に従って速やかに動くようにしたい（韓国）

- 2. 3日してからはたくさんの情報が入手可能になったように思え、多くの人が互いに助け合っていた。しかし、日本語の話せない人や家族のいない人にとっては大変だった（アメリカ）
- 水と電気がなくて生活が大変だった（韓国）

#### ◆原発問題や次の地震に関する詳細情報が必要

- 避難所に十分なガス・水・電気・食料が必要。より多くの原発問題や次の地震に関する詳細情報が必要（インドネシア）
- 食べ物への放射線被害の調査が不十分。MITIや宮城県のウェブサイトもこれに関するデータを提示していない。人参やお米などはまだ食べられない。産地が書いてある包装のラベルに従う（信じる）のは少し難しい（タイ）
- 地震や津波は怖いと思っているが、もっと怖いのは福島原子力発電所のことです。目に見えない放射線が怖くて一時帰国しました。これから1番心配する放射線のこと、また発電所の事故を収束できるように祈っております（中国）
- 原子炉の放射線レベルに関する情報が明確ではない（バングラデシュ）
- 原発事故に関する情報をもっと公開しなければならないと思いました。外国人の私たちはほとんど母国に帰りました。地震を怖がっているのではなく、原発事故ほどの程度まで深刻だったのかについての情報を全く把握できず、あわてて、結局何もできなかったのです（中国）

#### ◆普段から災害に備えること、防災訓練に参加することが大切だ

- 地震の演習にたくさん参加して、普段に食物を用意して、万一に備えることが大事です（中国）
- 地震演習をたくさん参加するようにしておきたいです（中国）
- これから、食物をきちんと用意するようにしておきます。地震の時結構おなかすいたですから。夜は真っ暗。学校の協力はそんなに多くない。自力で避難所とかで水・食料を探さないといけない（中国）
- 地震後いろいろな問題が出てきて、例えば食物がなく、通信と交通など（中国）
- 外国人の場合、地震等の災害時は日本人と一緒に行動した方が一番安全だと思う（韓国）
- 今回の地震は人生初ですので、すごく驚いた。ただ、これで地震が起きたら後どうすればいいのか知るようになりました。例えば、地震に備えが大事とわかりました。地震の時、携帯が通じなく、家族と連絡を取れなかったです。住んでいた学校の寮にはテレビがなかったので、地震に関して情報を全然知らないです。そして、必要な情報をわからないため、避難所の場所と行き方を全然わからなかったです。学校側は学生を放置するように無関心な状態だったです（中国）
- 最初の段階で何をすべきか知らなかった（中国）
- 今回の地震に対して、心を痛めた。でも周りの方々に協力してもらいながら、何とか乗り越えた。これから被災者に何か役立つことをしてあげたい。今回の地震を通して、地震に対する準備をした方がいいと思った（中国）
- 地震の演習が大事だと思います。身分証明書や貴重品は普段に取りやすいところを置くようにした方がいいです（ベトナム）
- もうこんなことが二度と起こってほしくない。私の考えや祈りが地震や津波の影響を受けた人に届くといい（韓国）
- 地震に関する防災準備が必要です。水・食品・ラジオ・身分証明書のコピーとか。電話会社によっ

て電波があるかどうか違うらしい。それは不便です（中国）

- 最初はこんなに大きな地震だと思わなかったけど、結局こんなにひどい被害だったことにびっくりしました。やっぱりどんなことでも油断しないで、準備をしなければならないです。一日も早く復活するようにここから願っています（中国）
- もし余震が起こったら、水・食物とガソリンおよび薬品と日常の生活用品を常に備えたほうがいいと思う（中国）
- 今回の災害を通じて、以前はただ映画やテレビにだけ見た光景が身近で起きていたから、日頃から災害の備えていて非常用の持ち出し袋を準備したり、住いの近くに避難所があるかを確認したり、しなければならないことを感じました（中国）
- 人と人の助け合いは大切だと思った。普段、当たり前だと思って使っているもの（水・電気・ガス・食べ物）はもっとも重要だと実感した（中国）
- 食物は日頃からためておく習慣をつけなきゃと思いました。また、重要なもの、例えば携帯電話・充電器・パスポート・財布などは身の回りに置くことなど、注意すべきことが多かったと思います（中国）
- 今回の地震が起きた。何も準備しなかったので大変だったです（タイ）
- 今回の地震の中で、私はパニック状態に陥った外国人女性の様子を目撃したが、災難の前でみんなは一致団結してともに難関を乗り越えるべきだと思う。互いに愛し、国籍を超えて親族のように励ましあい、面倒を見る。一外国人として国にいる親戚からの心配を感じたとともに、日本人の間の親切さも実感できた（中国）

#### ◆日本社会と日本人について

- 震災以来、外国人であることへの強い反感を経験した。私の同僚は私が大使館の助言を受け入れることや、東京の大使館を訪れることに対して露骨に反対の意を表した。
- 今回の東日本大震災があつて、怖かったけれど日本人とともに頑張つてあきらめないうで、続けて日本で勉強している（ベトナム）
- 日本は地震が多い国のため、対策がよくできていると思った。ある程度おさまったと思われる状態でもすぐに電気・水道・ガスの配給がなされなかった点においては、日本人の慎重さを感じる事ができた（韓国）
- 日本人はすごく秩序的で、うまく組織しました（中国）
- 良い人生の経験になりました。買い物をするとき、ガソリンを入れる時、すごく秩序的だったです。その例外今回の地震で中国人の信譽が前より低くなってしまった。地震で帰国しましたが、日本に戻ってきたらアルバイトが無くなって、新しいのはまだ見つからないです（中国）
- 地震が怖かったですが、いろいろな人に（例えば学校の先生）援助をもらつて、すごく感動して、心温かかったです。日本が早めに復旧できるように祈願します（台湾）
- 普段あまり面識のなかつたお隣の方々と互いに助けながら生活したことが大きな支えとなつた（中国）
- 地震はとても怖いけど日本人は優しく親切。また秩序がしっかりしているので大丈夫（中国）
- 震災にもかかわらず、都市が機能してうれしい驚きだった（カナダ）
- 日本、頑張れ！

- がんばってください（中国）
- 初めて体験したが、家族全員無事で安心した。みんなの気もちが一つになって感動した。すごく勉強になった（中国）
- 日本の方々にお世話になりました。ありがとうございました（マレーシア）
- 日本人の精神が素晴らしいと思った。なぜなら、大変な状況でも冷静に行動したから（ベトナム）
- 日本人は親切だった（中国）
- 地震の時でも、ちゃんと行列立っている日本人のマナーがすごいと思った（中国）
- 日本人が本当にすごくて地震に遭っても、ちゃんとルールを守って避難したし、中国だったらやばいかも（中国）

以上